



# モッテコイ 誼訪小魂！

～ 本物の【あかぎの心】を發揮しよう ～

長崎市立誼訪小学校 校長 山崎 直人

## 誼訪小 FGS 研究発表会

2月3日（金）誼訪小 FGS 研究発表会を開催いたしました。「FGS」とは「フロンティア・GIGA・スクール」の頭文字を取った略語で、文部科学省が推進している「GIGA スクール構想」に沿った授業改善を先進的に研究する学校のことです。長崎市教育委員会からの指定を受け、令和3・4年度の2年間の研究成果を広く公開しました。

コロナ禍により休校を余儀なくされたり、濃厚接触のため長期間学校に来ることができなかつたりする場合を想定して、予定より前倒しをして一人一台パソコンの配備がなされました。これに伴い、当然、授業も変わっていかねばなりません。その研究を学校挙げて2年間行ってきていたところでした。研究発表会当日は、120人を超える参観があり、大盛況の研究会となりました。関心の高さがうかがえます。

4年2組と6年2組の2学級を、具体的な授業を公開する学級として選びました。4年生は体育、6年生は社会の授業です。どちらも多くの参観者が集まる中、普段どおりの真剣さで、パソコンを駆使しながら友達と語り合い、協力しながら学習目標を達成しました。

参観者からは「パソコンの操作能力がどの子も高いこと」「学習へ向かう姿勢が真剣なこと」「子供たちと担任教師との関わりが良いこと」など、高い評価をいただきました。

公開をした他の学級は、午前中のみで下校となりましたが、研究発表会の意義を伝え、清掃活動や環境整備を通して、誼訪小の良さを見てもらう準備をすることができました。

また、この2年間の研究期間にはすべての学級で取り組んでおり、どの学級でも質の高い授業ができることを目指してきました。

授業後の研究協議会では、参観者にもすべて一人一台のパソコンを持ち寄っていただき、話し合いをしました。つまり教員自身も子供たちと同様、学んでいこうという姿勢を示したわけです。



この2年間の研究で、子供たちのパソコン操作能力は確かに上達しました。パソコンを効果的に活用する授業づくりも教師は学んできました。これからの世界を生きていく上では必須の能力であると言えるでしょう。

しかし、新たな課題も見えてきています。ICT 機器活用と直接体験とのバランス、視力低下、持ち帰りの問題、依存の危険、SNS 上でのトラブル増加等です。授業の本質を見つめ直すことも重要です。

成果を生かしつつ、今後は新たな課題への取組も行っていきたいと気持ちを新たにしました。

ご理解とご協力、ありがとうございました。

